

報告



エゾシカ越冬地観察会報告

(社)日本技術士会北海道支部／北海道技術士センター
 地域産業研究会 エゾシカ分科会
 技術士（農業／総合技術監理部門） 渡辺 千春

1. エゾシカの姿を期待しながらいざ現地へ

今後のエゾシカ分科会活動（飼育方法の検討）を進めるためには、エゾシカの生態を少しでも知る必要があるのではないかと五十嵐敏彦さんの提案により、エゾシカ越冬地観察に行くこととなった。参加者は、五十嵐さんを講師に、阿部任さん、川村政良さん、船越元さん、油津雄夫さんと渡辺の6名である。

04年4月8日AM10時、新札幌のドーコン前に集合し、五十嵐さんの車で芦別市滝里ダム湖周辺に向けて出発。途中、滝川市の松尾ジンギスカンで腹ごしらえをして、14時に現地到着する。札幌を出るときは晴れ間が覗いていたが、北に進むにつれて雲行きが怪しくなり、現地は雪が降っていた。

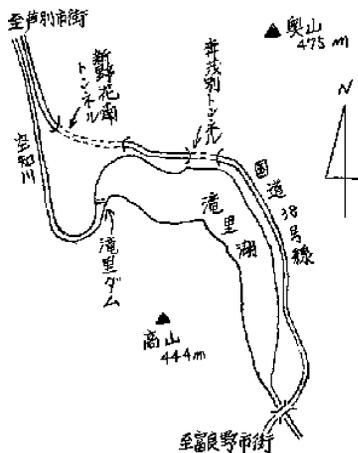


図-1 滝里湖周辺概念図

新野花南トンネルを抜けたあたりから、道路左端に沿って車をゆっくりと走らせる。エゾシカはいないかと期待しながら、車の中から、富良野方向に向かって国道38号線の左側となる南斜面の林方向に

目を凝らす。しかし、エゾシカの姿を見ることができない。しばらく進んだ後Uターンしてゆっくりと引き返すが、やはりシカは姿を現してはくれない。五十嵐講師によれば、この時間帯にはエゾシカは林の中で休んでいる可能性が高いとのこと。しかも、雪が降っているため、姿を現してくれることはなおさら期待できないのだそうだ。

2. 越冬好適地とはこんなところ

滝里湖展望広場駐車場の前に車を置いて、林の中を歩いてみることにする。いつの間にか雪がやんで晴れ間ものぞくようになってきた。北側から国道と合流する林道から林の中に入る。林の中を歩くと、エゾシカに食べられたササの跡や足跡は観ることができるが、やはり姿は見せてくれない。この時間帯ではシカの姿を見るのは難しいということで、まずは以前に五十嵐講師が発見したエゾシカの寝床を観察することにする。



写真-1 エゾシカに食べられたササ

奔茂別トンネルの芦別方向側入口手前から、南のダム湖方向に向かって林の中に入る。この林はトドマツの人工林であるが、一部に天然のアカエゾマツ

の大木が残り、若干ではあるが広葉樹も生育している。林の中にはいると、すぐに樹皮食いされた広葉樹が目にはいる。さらに奥に進むと、幹の周囲に樹皮や松ぼっくり、枯れ葉が敷き詰められたアカエゾマツの大木が現れる。それはまるで誰かが意識的に敷いたかのように見えるが、自然に落下してそのようになったとのこと。これが、五十嵐講師がこの昨冬に発見したエゾシカの寝床だ。数頭のエゾシカが雪や風を防ぎながら夜を過ごすのだそうだ。確かに居心地が良さそうである。ここに身を伏せながらじっと風雪を凌いでいるエゾシカの姿が、目に浮かぶようである。



写真-2 エゾシカによる樹皮食いの跡



写真-3 エゾシカの寝床

さらに奥に進んで、ダム湖側に南斜面が広がる地点に来ると、そこは広葉樹が多くなり針葉樹林の中とは異なり視界が開け明るい。冬の北寄りの風も避けることができる。このようなところが、エゾシカにとって冬を過ごす絶好の場所であるとのことである。そこには、ところどころにエゾシカの糞がまともって落ちていて、あるまともった頭数のエゾシカが過ごしていることが分かる。また、糞の大きさに

より、仔シカか成シカ、雄か雌かが分かるとのこと。確かに糞の大きさの違いがはっきりとしている。



写真-4 南向きの明るい斜面



写真-5 エゾシカの糞

車を置いた滝里湖展望広場駐車場前に戻った時に、渡辺が駐車場の奥にこちらを見ているエゾシカを見つけるが、すぐに木陰に隠れて見えなくなってしまった。船越さんはビデオを持って急いでその方向に追いかけて、2頭のエゾシカを確認。全員船越さんの行った方向を追うが、1.5 m位の柵を跳び越えて姿を隠してしまったそうだ。他のメンバーは未だエゾシカの姿を見ることができない。

3. 目の前のエゾシカの姿に大満足

やはり夕方近くにならないと、エゾシカは姿を現してくれる可能性は低いとの五十嵐講師の話。夕方まで富良野でお茶でも飲みながら時間を調整し、夕方にまた戻ってくることにする。富良野に向かう途中で、国道左手の斜面に油津さんがエゾシカを発見。木立の中にあると木にシカの姿がとけ込んでしまい、本当に分かりづらい。油津さんは良く見つけたものである。本人曰く、目と目が合ったそうである。

2頭いたが、すぐに斜面を登って姿を消す。富良野スキー場麓の喫茶店で夕方まで時間を潰し、17時に再び滝里湖に戻る。

ゆっくりと車を走らせていると、国道から下方のダム湖近くの疎林の中にエゾシカを発見。2頭走っていくのが見えた。しかし、我々からエゾシカまでは距離があり、点のように小さくしか見えない。

少し車を進めると、芦別方面に向かって国道右手の切土のり面中間部に、我々の方をじっと見ているエゾシカがいる。今度は、エゾシカの動きが手に取るように分かるような近い距離だ。エゾシカはしばらくこちらを見ていたが、ゆっくりと斜面を登りはじめる。警戒はしているようだが、我々は車の中にいてかつ一定の距離を保っているからか、あわてて逃げるような素振りはない。やがて林の中に消えていった。我々は身近にエゾシカを観ることができたものだから、大喜びである。ビデオを撮ったり、写真を撮ったりで、やや興奮気味である。



写真-6 国道のり面に現れたエゾシカ

さらに車を進めると、今度は右手に数頭がまとまって草を食べているエゾシカの姿が見える。全て雌ジカのようなようだ。五十嵐講師の言うとおりに、この時間帯には道路近くにかんりのエゾシカが姿を現すということが分かる。奔茂尻トンネル（越冬地を見た林近く）を出たところで、五十嵐講師は、トンネル方向を注意して見るようにと言って、車を止めた。すると、道路北側の方向からエゾシカが突如姿を見せたかとおもうと、トンネルの上を越冬地の林の方向に向かって駆け抜けて行くではないか。船越さんはあわてて車を降り、ビデオカメラを向けた。何頭

かの雌ジカが走り抜けた後、最後に立派な角の雄ジカが後を追って行った。全員呆気にとられ、そして次の瞬間はちょっと興奮気味に。船越さんは、やったというように車に戻ってきた。早速、みんなで車の中でのビデオ鑑賞会となる。ビデオカメラのモニターには、トンネルの上を駆け抜けていくエゾシカの姿が鮮明に映っている。最後の雄ジカの角もはっきりと分かる。

辺りはいつの間にか暗くなってきた。一路札幌へ戻る。20時、新札幌駅に到着する。漸く、全員が大満足のエゾシカ越冬地観察会が終了した。

4. 低コスト飼育法検討の今後の糧に

今回の越冬地観察会の目的は、①エゾシカはどのようなところで越冬するのか、②どのような生活をしているのか、これらについて理解し、実際にエゾシカを飼育するときの方法を考えるとときの参考にすることであったが、十分に目的を達成することができた。

今回の見学会では、エゾシカは、①越冬地として南向きの明るい斜面がある場所を好む、②ねぐらとしては、大きな木のある針葉樹林のような風雪を凌げるが場所が必要、③冬の餌としてササがあると良い、以上3点のことを実感として理解することができた。

低コストでエゾシカを飼育するには、できるだけ自然の状態を利用できればよいので、養鹿場には、①南向きの明るい場所がある、②ねぐらとして大きな木のある針葉樹林のような風雪を凌げるが場所がある、③冬の餌として雪から掘り出しやすいササがあると良い、できるだけ以上の条件がそろっていることが好ましい。③については条件を満たさなくても、乾草やサイレージを補給することで解決できるが、①と②はできるだけ満たすような立地条件であることが、エゾシカ飼育にとって有利になるであろうと思われる。

今回の観察会で得られた知識を基にさらに研究を重ね、低コストで実現できるエゾシカ飼育法を検討していきたい。